

山の日情報

(第 12 号)

平成29年7月24日

秋田県生活環境部
自然保護課

【活動記録】

7月15日に八幡平秋田駒ヶ岳登山道において、刈払作業を実施しました。

作業には、角館高校山岳部、大曲工業ワンダーフォーゲル部、八幡平を美しくする会、ホシガラスの会などの総勢40名が参加してくれました。

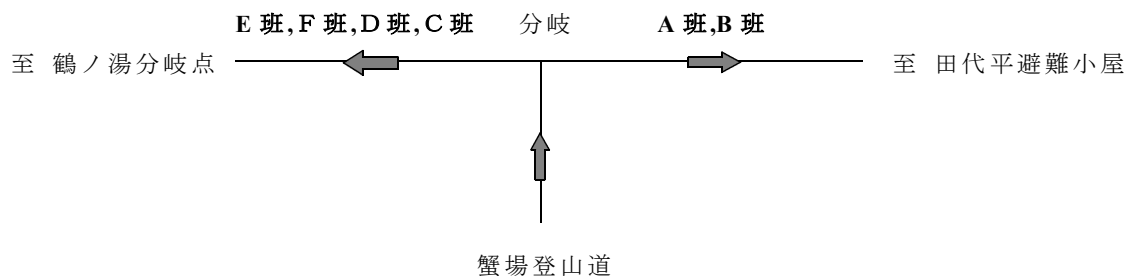
「八幡平秋田駒ヶ岳登山道」と言っても、ピンとこないかもしれませんが、起点は八幡平見返峠からで、大深岳から分岐し、八瀬森避難小屋を経由して、大白森、小白森、乳頭山などの山々を経て、秋田駒ヶ岳が終点となる東北を代表する縦走路です。

この登山道はロングルートがゆえに、毎年刈払いをすることができず、ヤブ化が著しく登山者からの苦情も多かったのですが、昨年、環境省さんのご尽力により、大深岳分岐から大白森までの刈払いを完了することができていました。

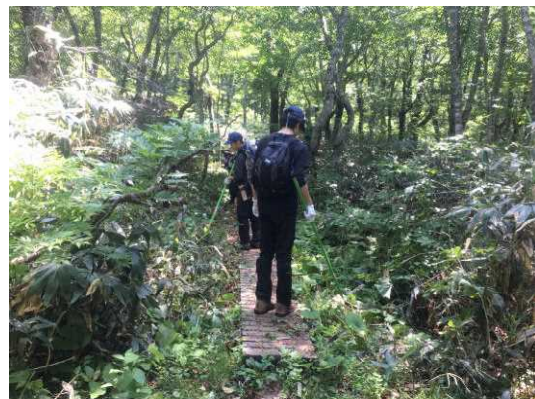
そして、今般、鶴ノ湯分岐から田代平避難小屋までの区間の刈払いを行い、八幡平から乳頭山までを一本につなげることを計画しました。

この区間は約4.5kmの距離があるため、果たして1日でできるのかという不安もありましたが、八幡平を美しくする会の菅原俊昭さんが次のような作戦を立ててくれました。

- ① ボランティア隊は、6班編成とする。
- ② 1つの班のメンバーは、刈払機を使用する者、刈払った後のササ等を整理する者、燃料等の荷揚げをする者など、役割を分担する。
- ③ 蟹場分岐点からは、ヤブの濃い鶴ノ湯側へ4班を充て、田代平避難小屋側へは2班を充てて作業する。(下図のとおり)



実際に作業をしてみると、予想以上にササが繁茂しており、作業ははかどらず、隣接する区間の刈払いをしているはずの班の刈払機のエンジン音が、なかなか近付いてきません。



タイムリミットが迫り、やはり 1 日では無理だったかと思い始めた頃、突然現れた隣の班のメンバーを見付け、刈払区間が繋がったことが分かった時は、安堵するとともに、大きな達成感がありました。

これも、職人技とも言える八幡平を美しくする会の方々の刈払作業と、高校山岳部及び社会人山岳会の方々の力仕事による協働作業のおかげです。

皆様のご協力により、登山者の道迷いを防ぎ、快適な山登りが楽しめるようになったものと考えています。本当にありがとうございました。



(参加者の感想)

○空梅雨のさなかの晴天に恵まれた土曜日、八幡平秋田駒ヶ岳登山道の刈払い整備作業にパークボランティアの一人として参加しました。とは言っても実際の作業は先頭に行く刈払機オペレーターと、その後に続いて刈られた草木を熊手で脇に寄せながら黙々と進む高校生たちが主体であり、私などはその後を追いながら、妨げになる枝を切ったり拾ったりする程度で、感想文を書くのもおこがましいのですが、乳頭山から伸びる県境の稜線は多くの登山者に利用される縦走路であり、整備の効果は大きいと言えます。

本来は作業が一段落する田代平湿原手前あたりで引き返すべきところ、ここならではのヨツバシオガマ、トキソウ、ワタスゲなどの見事な群落を見たい思いも強く、結局、田代平山荘まで足を延ばした結果、帰りの集合時間に遅れて他班の方々にご心配をおかけし申し訳なかったのですが、おかげさまで通常の山歩きとは異なる有意義な一日になりました。(ホシガラスの会 後藤裕紀さん)

○ 7月 15 日に私たち角館高校山岳部は、秋田駒ヶ岳山城の整備ボランティアに参加し、登山道の刈払いを行いました。

私たちは昨年もこのボランティア活動に参加し、避難小屋のペンキ塗りを行っていますが、その際の避難小屋までの登山道は綺麗でとても歩きやすかったのですが、それは、地元山岳会の人たちが事前に刈払いをしてくれていたものでした。

今回は、私たちが登山道の刈払いを行って、その大変さを体験するとともに、普段私たちが何気なく歩いている登山道も、いろいろな人たちの苦労があって、登山道を歩いているのだと知りました。

これからは、登山道を整備する人たちに感謝し、機会があれば、また登山道を綺麗な状態で保つ手伝いをしたいと思っています。

今回、私たちが整備した登山道を利用し、秋田駒ヶ岳の登山者が増えてくれると嬉しいです。(角館高校山岳部の皆さん)